

1. 評価結果概要表

作成日 2007年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2672700040
法人名	社会福祉法人 真愛の家
事業所名	グループホーム真愛の家 恵の里
所在地	京都府舞鶴市字上安1697-36 (電話) 0773-78-1221

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年10月16日	評価確定日	平成19年12月17日

【情報提供票より】(19年 9月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 10 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 10 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	33,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.89 歳	最低	77 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	舞鶴赤十字病院 荒木クリニック 古森歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長年地域福祉を担っている大型福祉法人を母体に持ち、舞鶴市で最初に開設されたこのグループホームは、特養やデイサービスと同敷地内にあり、職員との連携をはじめ緊急時の医療面での対応、イベントへの参加を通して、併設のメリットが十分に活かされています。管理者による理念の考え方についての研修や講師をホームに招いてのケアについての研修を通して働きながら職員を育てる環境づくりがなされています。また、職員間のコミュニケーションが良く日々のケアの中で情報共有が徹底されており、職員は同じ方向を向いて、入居者一人ひとりを深く知り、思いを把握しながらケアに取り組まれています。入居者は毎日の買物、散歩や家事、個別外出、イベントなどの楽しみや、役割を見出しながら思い思いに過ごされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	献立について栄養士にアドバイスをもらう体制にしたり、スペースを安全に動きやすくするために広くしたり、洗濯干し場を移動する事によって木々が見渡せる庭の見通しを良くなり、四季が感じられるようにもしています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者が職員と相談しながら会議で話し合い、取り組まれています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、民生委員、市職員、施設長などが参加する運営推進会議ではグループホームでの取り組み報告や活発な意見交換がなされており、サービスの質の向上が図られています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃より話やすい雰囲気をつくるように配慮されており、家族がホームに来られた際に、コミュニケーションを積極的に取られています。また、玄関先に苦情受付箱が設置されており、運営推進会議や事業所以外の外部の苦情窓口を書面で案内するなど意見や苦情を表せる機会が設けられています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	母体の特養にて地域の盆踊り大会を実施し、地域の方や他の施設やグループホームの方も来られています。また、地元ボランティアの方や散歩時の挨拶を通して地域の方と交流を深めています。今後、草刈りへの参加等を考えており、さらに地域との交流を図る予定です。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念と共にグループホーム独自の4つの方針を掲げられている。家族と地域との交流・連携を含め、街に開かれたグループホームを目指している。	○	ホーム内の誰にでも見えるところへの理念の掲示や会報誌などで地域の方に広める事が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念・方針については毎朝唱和をして、日々のケアに意識して取り組まれている。管理者が講師をしている、新規職員対象に理念についての研修会を法人として実施され、職員は同じ方向を向く事が大切と考えられており、意識の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体の特養にて地域の盆踊り大会を実施し、地域の方や他の施設やグループホームの方も来られている。また、地元ボランティアの方や散歩時の挨拶を通して地域の方と交流を深めている。今後草刈りへの参加等を考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	献立について栄養士にアドバイスをもらう体制にしたり、共有スペースを安全に動きやすくするため、倉庫をつくり共有スペースを広くし、洗濯干し場も四季が感じられる木々が見渡せる庭を見通し良くしているなど積極的に改善している。今回の自己評価は管理者が職員と相談しながら会議話し合い、取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、市職員、施設長などが参加する運営推進会議ではグループホームでの取り組み報告や活発な意見交換がされており、サービスの質の向上を図っている。		

真愛の家 恵の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員の方と管理者はとつながりがあり、相談をしたり、受けたりする関係づくりが出来ている。また、市主催のグループホームを対象にした研修内容についても、要望を聞いてもらい、実施し、市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族がホームに来られた際に、コミュニケーションを積極的に取り、良い事、嬉しい事を中心に伝えている。また、毎月、1ヶ月の様子を写真や手紙でも伝えている。金銭報告も毎月残高のコピーを送付し、家族がホームに来られた際にサインをもらっている。1年に1回ホームの広報誌を作成している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情受付箱が設置されており、運営推進会議や事業所以外の外部の苦情窓口を書面で案内するなど意見や苦情を表せる機会が設けられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係作りに配慮し、変わりなく同じケアが提供出来るように考えている。やむを得ない異動や離職で職員の交代がある場合は、管理者による研修やOJTを充実させている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での職員の段階に応じた研修や市やグループホーム連絡会で実施される外部研修を積極的に受講している。職員の日々のケアに活かせるように外部より講師を招き、全員が受講できる研修も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に出席し、勉強会や情報交換を通してネットワークづくりをしている。他のグループホーム職員との交換研修もあり、職員の気づきや自信につながり、サービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	少しずつ馴染んでもらえるように、家族と協力して安心感を持ってもらうようにしている。また、急がないで待つ事を常に心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりの個性を大切にしており、本人の思いを知ることに努め、喜びや苦しみを分かち合い、共に支え合う関係づくりを築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いに近づくために、寄り添うことを大切に、職員は変化をみつけて、本人本意の把握に努めている。また、意志疎通が困難な方には表情から思いを汲み取り、常に「なぜ？」を考えながら対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族の希望はコミュニケーションを通して把握し、職員の意見はほぼ全員が出席する毎月のカンファレンスにて話し合い、ケアプランに反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンスにてモニタリングをされ、緊急の際はケアプランの見直しがされているが、基本的に半年に1回の見直しとなっている。	○	設定した期間ごと、また要望、変化に応じて実践的な対応ができるプランになるよう見直しが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院の支援や、一人ひとりの意向に合わせたお墓参りや踊りの先生の送迎など個別の外出支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族と相談し、入居前からのかかりつけ医の支援をしている。また、提携医による定期的な往診や看護師の資格を持った職員の配置や訪問看護ステーションと連携もあり、安心した体制がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	その都度、家族、看護師、同敷地内にいる特養の看護師とカンファレンスを行い、方針を共有している。	○	重度化に伴う意思確認書を作成し、ホームで対応し得る最大のケアについて説明する事が今後期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーには十分に配慮した対応がなされており、会議で話し合ったり、管理者がその都度注意し、職員の意識付けを行っている。また、個人情報については鍵の掛かるところで保管されており、事務所より持ち出さないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課のある生活を意識する事無く、一人ひとりの希望や意向を把握しながら自由なペースでの生活が支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物、調理、配膳、後片付けなど出来る事を入居者と一緒に行っている。毎日の買物は入居者の楽しみになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に合わせて、毎日や夕食後の入浴が支援されている。入浴を拒否される方には声掛けのタイミングを配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内での調理や毎日の買物、散歩、カラオケなど役割、楽しみ事を支援している。また、同敷地内にある特養やデイサービスセンターでの音楽療法やイベントなどにも参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由に出掛けられる体制をとっており、同敷地内の特養に出掛けたり、散歩や買物など希望やその日の状態に合わせて支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	母体法人と同じ敷地内にあり、職員間で連携しながら日中は鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年に2回実施している。近所の方が到着されるまでの時間を想定した訓練も行っている。		

真愛の家 恵の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食全員の方の食事摂取量と水分摂取量を記録している。水分は飲み物の種類の工夫で取りやすいようにし、食事も一人ひとりの状態に配慮している。また、献立内容については管理栄養士からコメントをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりが感じられ、窓も大きく、明るく広い空間となっています。庭の季節が感じられる木々が見えるように工夫されたり、暑さ対策に日よけをつけたりしています。また、ホーム内に花を置いたり、思い思いに過ごせるように椅子を配置しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた馴染みのタンスや、手作りの作品や写真が飾られ、入居者にとって居心地の良い空間作りを家族と相談しながら工夫している。		